

平成24年度第2回岐阜県図書館協議会議事録

- 1 開催日時 平成25年2月27日(水)午後1時30分～午後3時30分
- 2 開催場所 岐阜市宇佐4丁目2-1
岐阜県図書館 2階 特別会議室
- 3 会議日程
 - ・館長挨拶
 - ・社会教育文化課長挨拶
 - ・委員長挨拶
 - ・議 題
 - 協議事項
 - (1)平成24年度岐阜県図書館改革アクションプラン自己評価シート(中間報告)及びアンケート結果について
 - (2)平成25年度岐阜県図書館改革アクションプランについて
 - 報告事項
 - (1)平成25年度岐阜県図書館予算について
 - (2)平成24年度岐阜県読書感想文コンクール結果について
 - (3)岐阜県図書館協力通信について
 - (4)岐阜県図書館広報誌(2・3月)について
 - (5)ぎふけん・おすすめの1冊コンクールについて
 - (6)第18回児童生徒地図作品展の開催について
 - (7)歴史的音源について
- 4 委員の現在数 10名
- 5 出席委員等の氏名及び人数 10名
 - 委員長 田村 弘司
 - 副委員長 薬袋 秀樹
 - 委員 大林 朱見
 - 委員 梶井 芳景
 - 委員 春日井 一朗
 - 委員 金森 さちこ
 - 委員 工藤 力男
 - 委員 小見山 章
 - 委員 寺澤 裕子
 - 委員 吉村 雅子

事務局出席者

水野館長、荻山副館長、鷲見総務課長、諸屋企画課長
杉山サービス課長、佐藤地図担当課長、田中課長補佐
酒向課長補佐、加藤主任 9名

教育委員会出席者

浜崎社会教育文化課長
長屋課長補佐

2名

傍聴者

1名

6 議事の経過及び結果

[午後1時30分、総務課長の司会進行により、協議会の開会に先立ち、館長から挨拶を行った]

(館長挨拶要旨)

新聞によりますと新年度予算は12年ぶりに増加されました。といいましても県全体での0.5%のささやかな伸びでありました。図書館予算につきましては、5.1%の伸びでございます。とりわけ資料購入費は、今年度議会で承認いただければ3,900万円から5,000万円へ増額され28%増の格別な予算となりました。ただし、予算増に伴い、何故予算が増えたのか、どのように使ったらいいのか、どのように新しいパフォーマンスを作るのかという責任が問われることとなります。後ほど詳細について提案させていただきますが、全体として本年度の反省と来年度の課題について御意見いただきたいと存じております。

(社会教育文化課長挨拶要旨)

委員皆様から忌憚のない御意見をいただき図書館の運営に生かしていきたい。委員皆様には、県図書館の応援団になっていただき、県図書館の長所を口コミでお知らせいただくと幸いです。さて県では、「子どもの読書活動推進計画」を作成。目標は将来にわたって読書を楽しみ、読書から学ぶ力を身につける、発達段階に応じた読書活動の推進を目指しています。読書する子どもとそうでない子どもに二極化している。何かきっかけが有り一度来館すれば、もう一度来てみたい、一線をこえれば親しみが増すと考えております。今後とも県図書館の運営に参画していただきたい。

[委員長は、挨拶後、委員の出欠状況を事務局に求めた。]

[事務局から本日の出席者について、委員10名中10名の委員が出席しており、定足数に達している旨報告した。]

(委員長)

[委員長は、議題の協議事項である「平成24年度岐阜県図書館改革アクションプラン自己評価シート(中間報告)及びアンケート結果」について、事務局の説明を求めた。]

(事務局)

[事務局から協議事項(1)「平成24年度岐阜県図書館改革アクションプラン自己評価シート(中間報告)及びアンケート結果」について説明]

館長 【趣旨説明】

本日の協議議題1・2でご協議いただくことについて、まとめて、提案趣旨説明をします。

一昨年度から、当該年度のアクションプランについては、この協議会において外部評価をいただいています。

まず、協議事項(1)では、岐阜県図書館改革アクションプラン「図書館評価」中間報告についてご意見をいただきます。また、利用者に対するアンケート調査では、利用者が図書館の資料の購入についてどう感じているかについても調査しましたので結果を説明します。

2では、それを踏まえた平成24年度岐阜県図書館改革アクションプランの素案を示します。わたしども、ミッションステートメントとして「岐阜のひとづくり、ものづくり、まちづくりを支えます」を掲げていますが、それを真に実現するためには、従来の教養・娯楽の分野に見られた普通の読書支援をしていくだけではなく、利用者の課題追求を満足させる図書館へ向かって行く必要があると思っています。そういう意味で、協議事項(2)に、「課題解決のための図書館の在り方」と表記させていただきました。そのために具体的に何をするのかについて提案いたしますので、ご意見をお願いします。

以上、2つの協議議題について、よろしくお願いします。

諸屋課長 岐阜県図書館は、広域性、専門性、効率性の発揮を三本柱にしています。それぞれの柱について評価の観点・項目を持ち、取り組んできました。目標値を設定した項目を中心に説明します。

【広域性の発揮について】

- ・相互貸借による本館からの貸出冊数は、目標値の96%になる見込みです。さらなる改善の余地があると考え、B評価としました。
- ・市町村図書館からの要請による出前講座等は目標値を超えました。学校などからの要請も他にあり、A評価としました。
- ・岐阜県図書館が準備した県内職員研修会における満足度指数は、目標

90%に対して96%となりました。参加者のニーズを明らかにして取り組んだ成果ととらえ、A評価としました。

- ・セット文庫貸出校数は、1月末の実績が既に昨年度全体の実績に並んでいます。学校図書館協議会等にお知らせし、ご協力をいただいたことが大きかったと思っています。今年度は、利用者の問い合わせや中学校学習指導要領の内容に即したセット文庫を増やしました。しかし、県内学校全ての利用ニーズに応えられる冊数は到底揃えられないため、学校への直接支援を行う市町図書館との連携について考えていきたいと思えます。B評価としました。

<今年度の新たな取り組み>

- ・県内図書館の横のつながりを深め、図書館力の向上を目指し、地区別図書館長会議を5地区で開催しました。職員の資質向上や行政との連携等が話題になりました。参加者から「有意義だった」との感想を聞きました。

<総合評価>

- ・広域性全体では、昨年度同様かそれ以上の成果を上げられたと考えられます。成果の把握が難しい面もありますが、今後も市町図書館の意見を聞きながら改善していきます。

【専門性の発揮について】

- ・県民の課題解決を支える調べ案内であるパスファインダーを20件作成しました。今年度実施の利用者アンケートから作成領域を設定しました。行政連携を意識し、行政向けパスファインダーも2件含めました。
- ・児童図書研究室資料のパッケージを今年度新たに4パック作成し、児童書を研究される方を支援しました。

<今年度新たな取り組み>

- ・音訳に関するマニュアルをホームページに公開し、音訳講習会を市町図書館職員にも開放しました。
- ・行政連携として、夢チャレンジコーナーでの就業支援、教育機関のパンフレットやイベントチラシを設置しました。農業経営課の依頼を受け、就農関係のパンフレットやパスファインダーを設置しました。美術館との連携行事やぎふ清流国体との関連掲示も行いました。
- ・レファレンスに関する3指標は、全て目標を下回りました。平成23年度と比較しても低下しています。原因分析を行い、平成25年度の取り組みに生かします。

< 総合評価 >

- ・従来からの課題ですが、専門性向上における結果把握が難しいです。各資料の利活用が進むよう、引き続き資料整備と効果的なPRを考えていきます。

【効率性の発揮について】

- ・雑誌スポンサー制度について、問い合わせなどあるものの、現在は2者4雑誌となっています。C評価としました。

< 今年度の新たな取り組み >

- ・建設予定である岐阜市立図書館との役割分担についてAVサービスを含めた話し合いを重ねています。AVは、郷土資料のみ収集する方向にし、館内視聴に関わる検討を始めました。

< 総合評価 >

- ・雑誌スポンサー制度については、県図書館の資料収集方針や費用対効果の面からその継続自体について検討していく必要があると感じています。

【利用者アンケート】

- ・第1回岐阜県図書館協議会にて委員からの指摘を受け利用者アンケートを「特色ある選書方針の理解を進めること」「選書では利用者のニーズをつかみ、ターゲットをしぼっていくこと」を明確にしたものにしました。具体的には「利用者の興味関心の把握」と「利用者による蔵書診断」を含めました。
- ・アンケート結果より「岐阜県図書館は、専門性の高い課題解決を求める利用者を増やそうとしたが、結果として、趣味教養への関心が高い利用者が訪ずれ、専門的な調べ物のための来館は少ない」「図書館で意図して集めている専門的な資料について、利用者は“十分”と思っている分野や“不十分”と思っている分野がある」「利用者が日常生活において解決したい課題には傾向がある」の3点が分かりました。
- ・アンケート結果の利用については、後段の「平成25年度岐阜県図書館アクションプラン」にて説明させていただきます。

(小見山委員)

貸出、アクセス、サービス件数、基本的に図書館は場を提供する機能が大きい。入館者の推移データがどうなっているか把握しているのか。

(事務局)

指標に直接示していないが、入館者数は平成24年度は約53万人の見込み、平成2

3年度が60万人で前年度を下回る見込みである。インプット、アウトプットの指標でもありましたが確実に入館者や貸出冊数が減少する見込みでありましたので、アクションプランでは敢えて指標にあげておりません。

(小見山委員)

いろいろな指標で目的が達成されているのであまり心配していないが、下がっている指標で分野別、年齢別にデータを取れないのか。

(事務局)

7月の第1回協議会で説明しましたが、入館者、貸出冊数の減少を分析すると、30から40代の女性、児童書の貸出が減少している。数年間にわたり家庭関係、流行本、児童書を購入しなかったのが原因と分析している。課題追求型の利用をターゲットにしたが、伸びていない。

(大林委員)

セット文庫は、学校の先生に聞いたところ、カリキュラム、おすすめ、用途別、テーマ別、ジャンル別にまとめられ利便性が良いと好評である。ブックトークを各学校で実施しているが、内容が重複しているので、県図書館のセット文庫をお借りできるのありがたい、内容も魅力的である。ただ、現在の手続は、学校 市町村 県図書館となっているが、学校から県図書館へ直接借りられるよう簡素化していただきたい。地図学習の出前講座は、子どもは興味をもち好評である。

(事務局)

学校から県図書館へ申し込んでいただくことは可能ですが県図書館としては、市町村図書館を経由することで学校図書館でこのような本が求められている実態を市町村図書館に把握してもらい、また担当者同士が対面することで、市町村図書館のサービスにつながるかと考えている。

(吉村委員)

セット文庫は、本校でも大変活用させていただいており研究が進んだ。定期便を活用した本の流通は、職員の意識向上にもシステムは有効と考えている。学校の状況は、子どもの情報活用能力を身に付けることが必要と痛感している。例えば、国語の授業では「小学校1年生でも自動車図鑑づくり」など高度な内容を行い、書き方、接続詞、書く順序を学び学習している。このため、指導内容に沿った本が子どもの数以上に必要である。セット文庫の内容と指導内容とズレがある学年もあったと聞いている。学校現場からの要望が具体的にだせるよう、ニーズを把握し提案していきたい。

(寺澤委員)

今年度県図書館長との意見交換会等、市町図書館との交流が拡大し、うれしく思っている。さらにこれを進めるために、県図書館で力を入れておられるパスファインダーを市町(村)図書館窓口に配架できないか。県図書館作成のパスファインダーが、市町村でも利用され、詳しいことはカウンターか、県図書館に直接電話リクエストできることに繋がっていくと、市町の図書館を利用される方が、県図書館の市町村図書館バックアップ機能を意識できるのではないか。パスファインダー作成開始時には数も少なかったが、現在は質、内容とも良くなっているため、県内に拡がることを望んでいる。さらに市町図書館の研修にも利用してほしい。

(事務局)

県図書館としても寺澤委員の提案どおり実行したいと思っております。セット文庫にありましたように、地域の利用者と県をダイレクトにつなげてまいりますと市町村職員の意識、知識の向上のさまたげにならないかを懸念しております。市町との共通項も含みつつ、専門的なパスファインダーの雛形の作成を検討しています。

(葉袋委員)

セット文庫の貸出は、内容のレベルも高く、市町村との連携も考えられているが、学校支援は市町図書館が実施するのが本筋である。県図書館は、マニュアル・プログラムの作成など元締めの役割を担うべきである。市町図書館自体が学校支援に長い視野で計画的に取り組むことができるように働きかけるべきである。

(梶井委員)

パスファインダーについては、県で作成されたものを市町村職員が活用する方向が良いと考えている。セット文庫は、県で全てカバーするには限界があり全て揃えても効率が下がる訳であり、地元図書館が役割を担うべきである。市町村図書館の立場から申し上げますと、市町村図書館のバックアップは県図書館が実施していただき、市町村図書館が地域の意見を把握すべきであり、市町村図書館の役割が問われていると考える。

(梶井委員)

雑誌に対する不満が多く、一般書の要望に対する満足度が高い。一般図書は過渡期的数値の歪みではないか。公共図書館の参考調査図書館である県図書館としては、雑誌購入で過渡期的数値としても340タイトルは弱い、1,000タイトルが要求されるのではないか。市町村の生活を越えた課題解決としての県図書館としてのスタイルを貫いてほしい。

(寺澤委員)

事務局の説明で図書館予算が増額されたとお聞きし安心した。

県図書館の、市町図書館と差別化し専門性を重視した収集方針は、理解できる。

市町図書館でも産業、芸術等、土地の特色、地域産業に関連して専門的資料を収集している分野がある。市町図書館と話し合い、分担収集も考えられるのではないか。例えば芸術性の高い図書は、頻繁に利用されるものでなければ、県内のどこかが収集する。専門的資料収集を県図書館だけで担うのではなく市町図書館との分担収集も視野に入れて提供することで、県図書館と市町図書館の連携も進むのではないか。

(事務局)

地域分担については、調査してみたい。

(田村委員長)

関市には刀剣、多治見市等には陶器コーナーがある。県民への情報源としての役割を県図書館が担ってほしい。

(梶井委員)

小さな市町村図書館は特徴がないのが特徴である。郷土資料はあって当たり前で当然責任を負うべきである。関市、多治見市は収蔵能力があるが、小さな市町では、長期保存が困難である。芸術性の満足度が低いが、隣に県美術館があり協力関係を結べば良く、このままの方針でよい。協力ということで解決される部分はあると考えられます。

(委員長)

[一旦質疑を打ち切り、協議事項2について事務局に説明を求めた。]

(事務局)

[事務局から協議事項(2)「平成25年度岐阜県図書館改革アクションプラン」について説明]

諸屋課長 ・岐阜県図書館は、広域性、専門性、経営の視点を持ち、県民の課題解決を支えることを目標にしています。それは岐阜県図書館ミッションステートメントに表れています。平成25年度も、その目標を目指し、取り組んでいきます。

【広域性の発揮について】

・内部外部評価では、昨年度より伸びや成果が見られました。そのため、来

年度も効果的な市町村図書館支援の方策を考え継続していきます。

< 観点1 市町村図書館等のバックアップ・利用促進 > では

- ・東海北陸5県との連携を継続し、利用者によって恩恵のある東海北陸図書館ネットワークを強固にします。
- ・職員スキルアップのための研修会では、喫緊の課題を参加者の経験年数に分けて取り上げます。
- ・定期の研修だけでなく、市町村図書館からのニーズに合わせた出前研修や相談を行います。
- ・図書館力の向上と県内図書館のネットワーク強化をねらい、来年度も図書館長意見交換会をさらに改善して実施します。

< 観点2 大学図書館・学校図書館との連携 > では

- ・セット文庫では、学習指導要領や朝読書に対応したセットを作成するとともに、各校が市町村図書館から十分な資料提供を受けられるように支援します。
- ・県内大学との連携事業、相互貸借を継続して実施します。
- ・高等学校でなかなか購入できない資料をリクエストとして受け付けます。

【専門性の発揮について】

- ・利用者アンケートによって分かったことを基にし、課題解決を支える図書館として「平成25年度の新たな取り組み」を設定しました。

< 新たな取り組み1：課題解決に役立つパスファインダの作成と選書の実施 >

- ・アンケート結果で明らかになった「県民の生活課題の傾向」を基にしたパスファインダーを増やします。
- ・加えて、「専門性・学術性・希少性の高い資料の収集」を岐阜県図書館の収集方針として進めてきましたが、来年度は、この選書方針を大切にしながらも、ある分野では、パスファインダの内容に合わせ、入門書から専門書までをそろえていきます。

< 新たな取り組み2：社会科学関係図書分類の細分化 >

- ・県図書館の品揃えを「より使い易くする工夫」です。
- ・図書館の分類表示は原則4桁ですが、これを一部5桁にすることで目的の本を見つけやすい本棚に変えます。

< 新たな取り組み3：専門性の高い資料の収集に対する客観的評価方法の検討 >

- ・県図書館以外から専門家を招き、県図書館の蔵書について観察評価法を用いた蔵書評価をしていただきます。取り急ぎは、利用者アンケートによっ

て専門的な本の所蔵評価が低かった美術（絵画）にて実施し、その有効性について検証し、他の評価法を考慮しながらより有効な評価法を検討していきます。

その他の取り組みとしては、

- ・専門的な課題解決を支援する雑誌を継続的に収集します。
- ・県図書館の特色ある収集である「児童研究図書」の利活用を進めるため、活用をアピールしたり、研究のための材料（パック）を増やしたり、HPなどで活用事例を紹介したりします。
- ・障がい者サービスをテーマとした講義を行い、視覚障がい者サービスの「音訳講習会」を市町図書館職員に公開します。
- ・平成の大合併により旧市町村となった市町村史について、目次データを現市町村ごとに分けて再編成します。
- ・平成27年度より岐阜県図書館は新システムを導入します。郷土資料のデジタル化を図ったり、利用者がデジタル資料を有効に使える環境を整備します。
- ・県行政を支える立場として、テーマ展示、ブックリストやパスファインダーの作成、雑誌カバーを利用して県行政の広報等を行うとともに、県行政からのレファレンスや直接利用を増やすため「県図書館向け利用案内」を作成し、研修会等にて配布します。

【経営の視点について】

< 新たな取り組み4：課題解決のための図書館の使い方を学ぶ講座（図書館活用ミニ講座：仮称） >

- ・この講座によって、県図書館が「課題解決のための図書館」として位置づき、新しい利用者の開拓につながることをねらっています。

その他取り組みとしては、

- ・自己評価や外部評価は「課題解決のための図書館としてのあり方」を問う視点として大切にしていきます。
- ・雑誌スポンサー制度は、費用対効果などから検討が必要だと考えています。
- ・AVサービスのあり方については、岐阜市立図書館と連携を取りながら検討を進めていきます。

（金森委員）

小中学校へのセット文庫について、教育ビジョンの重点施策のなかで卒業後の支援も含めた特別支援学校の改革で重点を入れている。健常者を想定しがちであるが、特別支援学校への貸出等を含めたサービス向上を図ってほしい。司書による障害者サービスは

認知されているが、住んでいる所に籍を置いて交流する傾向があり、市町村も学校を卒業後も利用しやすい環境整備をしていただきたい。予算の箇所付けが大切であり、障害者の卒業後を見据えて選書してほしい。幼児期に読書の習慣がついている子どもは、社会人になっても本を読む時期がくる。障害者や幼児に関する本を購入してほしい。

(事務局)

特別支援学校との関わりでは、セット文庫は3校で36セット275冊借りていただいている。県図書館の自由見学や体験学習も特別支援学校を受け入れている。さまざまな場面で使いやすい図書館となるよう努力していきたい。

(工藤委員)

大学図書館・学校図書館との連携に関して、「岐阜大学及び中部学院大学・中部学院大学短期大学部との相互貸借、連携事業の実施」及び「岐阜大学を窓口にした返却サービスの実施」にある「実施」の意味と説明文に表現されている「継続」の意味の関係が良く判らない。

(事務局)

言葉づかいを間違えておりました。上段に継続と表現しているため、下段は充実と表現すべきでした。

(工藤委員)

岐阜大学以外に取り組みはあるのか。

(事務局)

岐阜大学は、県図書館と岐阜大学図書館で協定を締結し、返却サービスを実施しています。他大学につきましては、活用についての協議は浮上しておりません。

(寺澤委員)

関連して、大学図書館ともホームページにリンクしてもらうよう協力依頼はしていただくことは可能ではないだろうか。あとは、検索した利用者が直接出向けばよい。

現在大学の多くは、市民開放の方針を取って利用を促進している。県内大学図書館も岐阜県図書館ホームページにリンクできるのではないかと、岐阜県大学図書館協議会へ声をかけてほしい。

(小見山委員)

大学図書館間では、リンクについては規定路線として確認しているが、大学によって

は予算、職員数が激減しており、協力しにくい事情があり温度差があることを御理解願いたい。岐阜大学にはマニアックな専門書が多いが学生は一般書を希望しており相互連携をお願いした。

(梶井委員)

自己評価の広域性の発揮についての取組数値を見る限り、岐阜大学や中部学院大学が県図書館の窓口になっていただいている数値となっている。岐阜大学や中部学院大学が、専門性の図書館資料充実としてのバックアップ機関としての役割を果たされるよう大学間での連携を模索していただきたい。

(薬袋委員)

岐阜大学を窓口にして返却サービスを実施することによって利用者の増加が見込まれる。セット文庫貸出は大いに結構であり、これを突破口にして市町図書館に拡げてほしい。吉村委員からセット文庫が役に立ったという報告があったが、事例報告を作成していただいてホームページに学校支援のページとして実践的な広報をしてほしい。市町図書館に対するバックアップについては、県域を超えた東海北陸地域の相互協力は、全国でも唯一の事業であるので、大変だが継続して欲しい。広域協力を通じて、各図書館の蔵書の弱点が見えて来ることによって、予算要求の根拠にも役立つ。

(春日井委員)

25年度の専門性の発揮で新たな取り組みとして、社会科学関係図書の分類細分化は利用にとっては助かると思うが、細分化するのは、社会科学関係のみであるのか。芸術分野等で利用者がとまどうことはないのか。

(事務局)

どの分野でも効果があると思うが、作業量が膨大で一度に対応出来ない。ニーズを把握し、まず課題解決分野から実施したが、今後さらに拡大したい。

(春日井委員)

是非、今後も継続していただきたい。

(工藤委員)

ご出席者の発言では、市町の図書館とおっしゃるが村の図書館はないのか。

(事務局)

村は岐阜県内に2村あり、図書館は未設置だが公民館図書室が設置されております。

(薬袋委員)

今回の利用者アンケートによって、良い利用実態が浮き彫りになっている。趣味・教養が128人あるので、課題解決のために用いられていないという受け止め方もできるが、もっとポジティブにとらえることもできる。趣味は学習であり、個人的研究とは言えないが、ビジネスにも発展するものである。教養も何かの時に課題解決につながる。インプットの数値の変化を示していただきありがたい。インプットも低下しているので、いたずらにアウトプットを求めても無理だと理解できる。マスコミで県立図書館の貸出冊数が少ないことが話題になっているが、児童書30%、文学12%であり、残りが0～8類と見るべきである。大人の使う県図書館としては、0～8類の貸出冊数で評価するべきである。また、本の単価が高く専門書が中心であるという要素を加味すれば、住民の要望に対応しているという説明が可能である。貸出冊数についても、0～8類が多いことを前向きに主張されると良い。市立図書館の貸出冊数と比較された時に、参考にされたい。分類の細分化について、調査研究に利用する際には、五桁分類であれば、より判りやすく利用の増加につながる。

(寺澤委員)

県図書館の改革アクションプランはいい方向に進んでいる。協議会冒頭浜崎課長が「図書館の応援団であってほしい」と言われたが、そのつもりで意見を述べさせていただく。

経営の視点から考えた時、活動の枠が拡大すると「人」の問題にぶつかる。県図書館業務が増加しても専任職員が増加していないことが気になっている。厳しい状況の中で、図書館員のやる気、熱意の継続が心配になる。市町図書館が県図書館に相談をもちかけたくても、忙しそうで相談しにくいとも聞く。県図書館の改革や、急激な社会の変化に対応するなかで職員が疲弊しないか心配である。社会教育課長が出席されておられるので、協議会内容や図書館活動を深く御理解いただき、図書館職員の定員増も検討いただきたい。資料整理、来館利用者対応だけでなく、活動の幅が大きく広がっていることを考慮していただきたい。併せて図書館の柱である館長人事は重要。現図書館長が図書館を愛し、図書館の役割を認識して業務されていることで図書館が元気になってきているように感じる。このような状況が継続されることが大切であり、お力添えいただきたい。

(事務局)

定員につきましては、平成24年度は古地図の関係で前年度から2名増加しておりますが、通常ベースでは47名体制となっております。平成25年度は社会教育文化課の尽力によりましては3名増の50人体制となります。図書購入予算だけでなく、定員についても配慮されております。

(委員長)

[委員長は協議事項の審議の終了を宣言し、各委員の意見を参考に事業を進められるよう事務局に依頼し、その他報告事項の説明を求めた。]

(事務局)

[協議会で話題になった部分を事務局から報告事項について説明]

総務課長 資料(3)

企画課長 資料(4)(5)(6)(7)

サービス課長 資料(8)(9)を説明した。

(小見山委員)

児童生徒地図作品は図書館で画像保存してあるのか。大学生に見せたい。ラーニングコモンズにも設置したい。

(事務局)

入賞したものは、過去分も含めてホームページに画像保存してある。

(委員長)

児童生徒地図作品展記録集の配布先を教えてください。

(事務局)

市町村図書館、学校に配布しているが、大学には配布していない。総数1,000冊印刷している。

(委員長)

[質疑、意見等他にないことを確認し、今後のスケジュールについて事務局に説明を求めた]

(事務局)

[今後のスケジュールについて説明]

次回の協議会の開催は、平成25年7月頃開催を予定。

新年度に日程調整を実施する予定。

(委員長)

「次回の協議会の開催は、7月頃開催を予定している旨周知した。」

[本日の協議事項の審議がすべて終了したことを確認し、午後3時30分に閉会宣言し

た。]